

関係各位

株式会社 山喜農園
新潟県魚沼市原1280-1
TEL. 025-794-2455
FAX. 794-4168
E-mail: info@yamaki-noen.co.jp
HP Address: http://www.yamaki-noen.co.jp

#球根情勢報告

平素よりお引き立ていただき誠にありがとうございます。

早いもので2017年も5か月を過ぎてしまいました。(当社の場合2016年12月より17年シーズンがスタートしているイメージです。)

当年の気象条件の影響でしょうか、やや仕事が遅れ気味となっておりますが、ある意味6月は百合産業の大きな節目、来シーズンに向けての準備が本格化する時期となっているように感じています。

6月上旬から7月上旬にかけて国内国外では、大規模な百合展示会が開催されます。

百合球根切花産業を大きく盛り上げていく良いイベントになればいいなあ、と願っています。

6月2日より約1週間短い期間となりますがオランダに出張してまいります。

『ダッチリリーデイズ』開催期間中に現地の状況を確認してくるのが目的となります。

帰国後ご報告いたします。

①#百合試験栽培

新潟県魚沼地方の天候要因+16年産オランダ産/フランス産の低温蓄積(休眠打破)不足(遅れ)、両方の影響を受けた為なのか、開花がやや遅れ気味となっている様です。

今後の天候にもよるでしょうが、(夏場の試験栽培は、足し算/引き算がしにくい。)A.H/L.Aで3~5日の遅れで開花のピークを迎えるかなと感じています。(6月13日~6月18日頃が見頃。)

その後、鉄砲百合/L.O/O.T/H系については遅れを解消して、ほぼ例年通りの開花時期を予測しております。

O.Tの見頃は、6月20日~6月25日

O.Hの見頃は、色物で6月25日~6月30日。白系で6月25日~7月5日 くらいとなる様です。

#魚沼隔離、#新潟セレクションリリープロジェクトの開花時期は、

A.H/L.Aで6月末。

O.H/O.Tで7月上旬中旬を予定しております。

どうやら6月26日(月)~30日(金)の週からが、最も多くの品種の開花確認ができるように思います。(山喜+魚沼隔離)

大勢の皆様からご確認いただけるよう願っております。

よろしく願いいたします。

本年の山喜農園#百合試験栽培・#魚沼隔離(#新潟セレクションリリープロジェクト)は、例年との違いがクリアです。

1) 管理責任者の当社課長曰く、新設された試験温室での栽培を始めてから数年間、国産球試験区では思った成果を上げられなかったとの事ですが、今シーズン初めて自分自身がイメージした状況になりそうだと。の事。

(これは良い意味でも悪い意味でも)お役に立つデータが収集できそうだと、との事でした。

2) 成功するかどうかはともかく、鉄砲百合新品種試験が再び増加したようです。

3) #魚沼隔離(#新潟セレクションリリープロジェクト)において、より顕著に確認されることですが、A.H/L.Aの品種数が激増している様です。

これは良い流れなのだろうと感じています。

1~2年以内に一定以上の球数が確保できる品種を中心に、すでに免除ロット(フリー品種)を取得してい

る品種すらあえて隔離コンディションで輸入して、比較しやすい状況を作り上げたようです。

今年の試験栽培からの見極めはかなり重要性が高いと考えられます。

既にご承知の事と思いますが、17年産生産を持って生産終了を迎える品種が、従来の主要品種の中に多数ございます。導入品種で供給不可となるために変更しなければいけない時期がついやってきました。

17年産/18年産切花は、準備の年。18年産/19年産切花から市場に対して供給する品種が大きく変わってくると想像しています。ぜひとも「その視点」でご確認くださいませようよろしくお願いいたします。

実は…、

*O.H/O.T系切花農家の皆様にもこのA.H/L.Aの変化の兆しを感じていただけたら…と考えています。

キーワードは、『一定期間の連続性』という言葉になるのではないかと思います。(ついにO.H系市場でも…。)

4) O.H/O.Tの動き

相変わらずO.T系の新品種紹介の流れが続いていますが、今年は比較的話題性のある品種が少ない年となる様です。

八重O.H系の紹介数が異常に増加しています。

ロイヤル系・R.L系に加えてVletter社、V.Z社などを加えるとその数は40品種を超えてくる様です。(果たして何品種が生き残れるか?)

現在の日本切花市場における八重O.H系の流通割合は、0.7~0.8%と切花生産者レベルにおいても実験的な導入となっております。

今後のマーケティングは家庭園芸用、植栽用、鉢物・切花用とそれぞれの市場に向けて整理を進めていくことになるだろうと思います。

一重のO.H系では、昨年まで隔離栽培にて試験されていた品種がいよいよ免除ロットを取得して、一般試験区に入り始めています。特にV.Z社、D.J社の品種数増加が目を引きます。

V.Z社の品種は、過去の日本市場において各切花産地の主要品種に育つまで大きく伸びるケースが多かったように感じています。「他球根消費国の品種導入傾向を意識した品種開発」のウエイトが高まってきている情勢ですから、今回のV.Z社の紹介はかなり注目して見ることになるのではないのでしょうか?

(南半球産の開発も意識して。)

5) 球根生産方法別(各コンディション別)の比較傾向の把握がしやすくなっていると思います。

是非皆様ご自身の目でご確認ください。

同一品種の出荷機関を安定的に、「連続性」を維持していく。その為に必要な情報が整理されているのではないかと存じます。

ご不明な点等ございましたらお問い合わせください。

よろしくお願いいたします。

以上
森山 隆